

- 4期生 17名の出帆式を開催 -

外航日本人船員（海技者）確保・育成スキーム

国土交通省、国際船員労務協会（IMMAJ）、全日本海員組合および当協会で構成する「外航日本人船員（海技者）確保・育成推進協議会」（事務局：（財）日本船員福利雇用促進センター（SECOJ））が2007年4月から開始した「外航日本人船員（海技者）確保・育成スキーム」の第4期生17名（航海15名／機関2名）の出帆式が、10月1日、兵庫県芦屋市の（独）海技教育機構 海技大学校で開催された。



出帆式での4期生17名

同スキームは、外航日本人海技者の減少を背景に、船員教育機関の卒業生を対象に、即戦力として活躍できる船員（海技者）へキャリア形成を図ることを目的として実施されているもので、これまで1～3期生延べ45名（航海39名／機関6名）の受入れを行っている。（詳細は後述）

外航官労使のスキーム関係者および海技大学校教職員が見守る中、海技大学校講堂で行われた第4期生出帆式では、国土交通省海事局石澤海事人材政策課長、国際船員労務協会井上常務理事（事務局長）、全日本海員組合国際局渡部外航部長および当協会林副会長より式辞が述べられた。式辞においては林副会長をはじめ各団体の代表から、外航船員を目指す以上、英語の習得が不可欠である旨が異口同音に強調され、海技知識の習得とあわせて積極的な自己研鑽に励むよう訓示がなされた。また、船の中では一般社会以上に「報告・連絡・相談」、即ち「Communication」が重要となる点も強調された。

これに対し、4期生の代表より、「本スキームを通じて知識・技量を高め、外航海運の明日を築いていく一員になりたい」と力強い宣誓の言葉が述べられた。

4期生については、10月より海技大学校で2ヶ月間の導入座学研修を実施した後、その後7ヶ月間、わが国外航船社が運航する船舶で乗船研修を行うこととしている。



林副会長による式辞

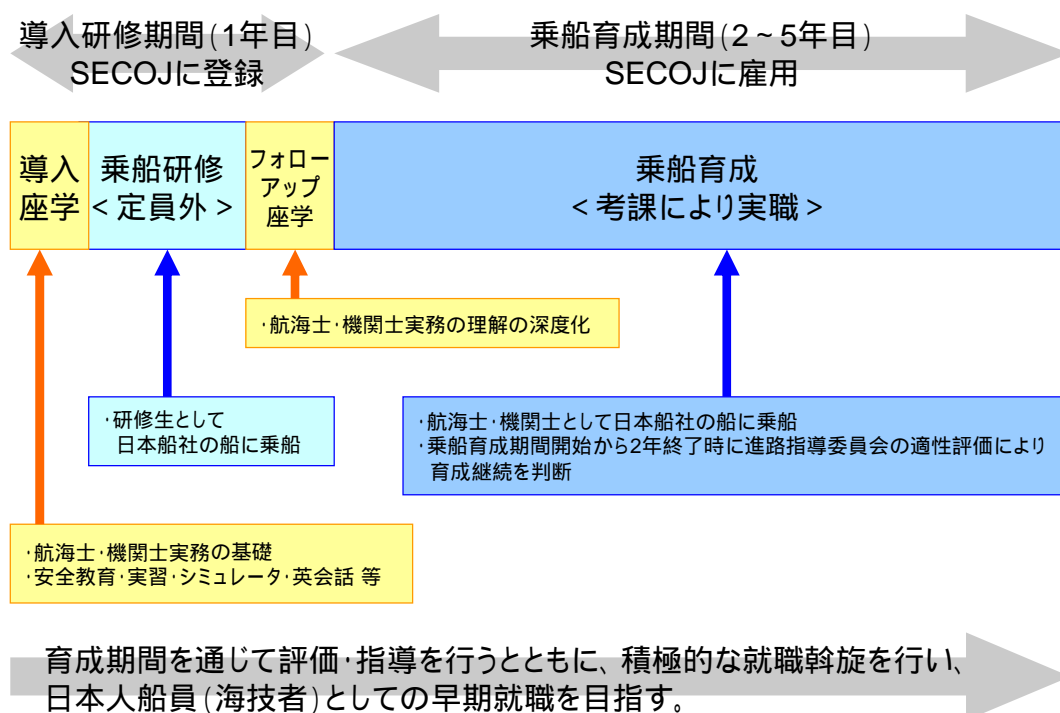


4期生代表による宣誓

本スキームの現状は以下の通り。

1. 育成スケジュール

(平成 23 年度 外航日本人船員 (海技者) 確保・育成スキーム募集案内より)



2. 1期生

1期生については、2007年10月に11名(航海9名/機関2名、内女性1名)が育成を開始した。このうち、これまでに航海士5名(女性1名を含む)が外航への就職を果たし、航海・機関士各1名の計2名が内航へ就職した。その他2名(航海・機関各1名)が陸上に就職した結果、現在航海士2名がスキームでの育成を継続している。

3. 2期生

2期生については、08年10月に17名(航海15名/機関2名、内女性4名)が育成を開始した。このうち、航海士7名(内女性2名)・機関士1名の計8名が外航に就職し、航海士1名(女性)が官公庁(練習船)に就職した。現在、残る航海士7名(内女性1名)・機関士1名がスキームでの育成を継続中である。

4. 3期生

3期生については、09年10月に17名(航海15名/機関2名、内女性1名)が育成を開始した。3期生に関しては、現在、導入研修(1年目)を終えたところであり、本年10月以降順次、乗船育成に移行し、原則三等航機士若しくは次席三等航機士として実職を執ることとなる。なお、17名の内、既に航海士3名が外航に就職し、同1名が水先人を目指し転進したところ、現在は13名(女性1名含む)がスキームを継続中である。

5.5 期生の募集について

2011年10月よりスキームを開始する5期生(定員20名)については、既に募集を開始しており、推進協議会の下に設置された進路指導委員会(当協会、全日本海員組合、国際船員労務協会、SECOJで構成)において、10年9月に第1回の面接を実施した。今後、11年2月～3月に第2回目の面接を行う予定となっている。

問い合わせ・応募先は以下の通り。

財団法人 日本船員福利雇用促進センター(SECOJ)
〒104-0044 東京都中央区明石町1番29号 掖済会ビル
TEL : 03-3544-7706(代) FAX : 03-3544-7708
<http://www.secoj.com/>
担当 : 育成部

当協会は、推進協議会関係者と協力し、本スキームにおいてわが国海事社会の将来を担う優秀な人材が育成されるよう、引き続き取り組んでいくこととしている。

以 上